iZ2シリーズ

パソコン短縮設定用プログラム（iZ2/S） Ver.5.1.0.X
パソコン短縮設定用プログラム（iZ2/M） Ver.5.1.0.X
パソコン短縮設定用プログラム（iZ2/L） Ver.5.1.0.X

■ 取扱説明書 ■

―― 目次 ――

《ご注意》本プログラムを使用して旧iZシリーズ主装置の短縮設定を行うことはできません。旧iZシリーズ主装置の短縮設定を行う場合は、「パソコン短縮設定用プログラム（iZ/「　」)を使用してください。

《お願い》古いバージョンのプログラムを使用した場合、本取扱説明書の内容と一部異なる点があります。
必ず最新版のプログラムと取扱説明書をお使いください。

※本説明書内の画面は一例です。プログラムの種類やパソコン側の環境によって異なる場合があります。

1. はじめに（必ずお読みください）

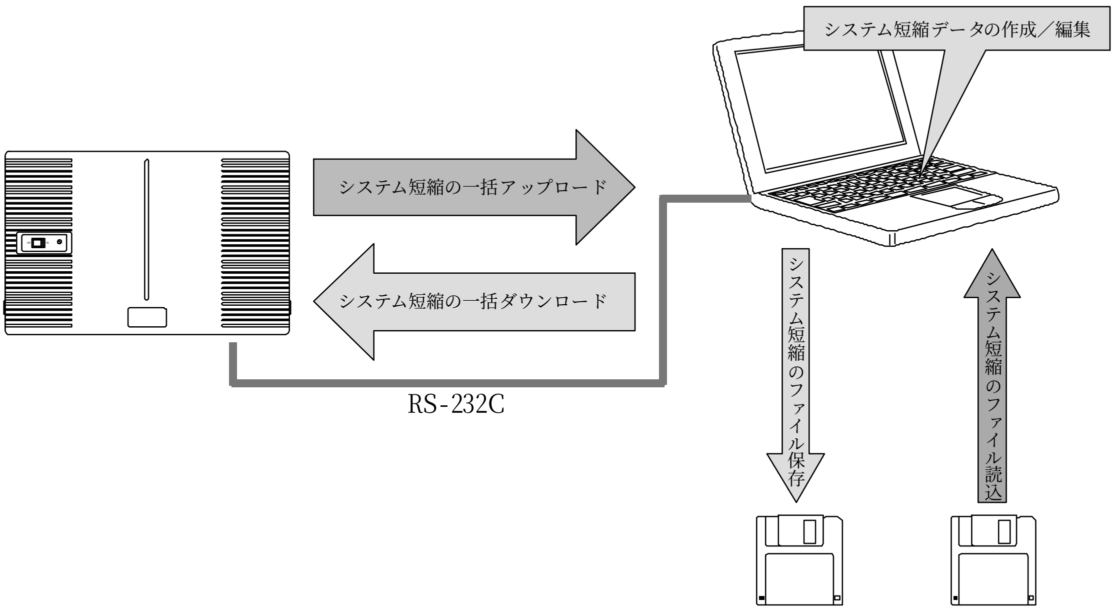
1－1　本プログラムの概要

本プログラムは以下のことができます。

●主装置のシステム短縮データをパソコンにアップロードする **主装置へのダウンロードのみを行う場合も、必ず最初に実行してください。**
●パソコン上でシステム短縮データを作成する * 作成内容のファイル保存やファイルからの読込も可能です。
●パソコン上のシステム短縮データを主装置にダウンロードする

* ：パソコン単独でもシステム短縮データの作成、ファイル保存、ファイルからの読込も可能です。（事前に設定ファイルを作成するときなど）

※電話機毎の短縮データは、パソコンでアップロード、作成／変更、ダウンロードすることはできません。



1－2　本プログラムの操作の流れ

本プログラムは、以下の流れで操作してください。

[1] 事前に短縮データを作成する場合

①プログラム起動 ⇒P４参照
②「電話帳データの編集」を選択 ⇒P7参照
③短縮データの作成、ファイル保存 ⇒P8、9参照

[2] 主装置に短縮データを設定する場合（事前作成ファイルなし）

①主装置とパソコンを接続
②プログラム起動 ⇒P４参照
③「電話帳データの読込」を実行 ⇒P5参照
④「電話帳データの編集」を選択 ⇒P7参照
⑤短縮データの作成、ファイル保存 ⇒P8、9参照
⑥「電話帳データの書込」を実行 ⇒P10参照

[3] 主装置に短縮データを設定する場合（事前作成ファイルあり）

①主装置とパソコンを接続
②プログラム起動 ⇒P４参照
③「電話帳データの読込」を実行 ⇒P5参照
④「電話帳データの編集」を選択 ⇒P7参照
⑤ファイル読込 ⇒P7参照
⑥「電話帳データの書込」を実行 ⇒P10参照

※事前作成の内容で変更が必要な場合は、⑤の後で短縮データの変更とファイル保存を行ってください。

[4] 主装置の短縮データを変更する場合

①主装置とパソコンを接続
②プログラム起動 ⇒P４参照
③「電話帳データの読込」を実行 ⇒P5参照
④「電話帳データの編集」を選択 ⇒P7参照
⑤短縮データの作成、ファイル保存 ⇒P8、9参照
⑥「電話帳データの書込」を実行 ⇒P10参照

1－３　パソコン側の条件

⑴ パソコン：DOS/V（PC-AT互換機）

⑵ OS：Windows® 98SE 日本語版、Windows® Me 日本語版、Windows® 2000 日本語版、
Windows® XP Home Edition 日本語版、Windows® XP Professional 日本語版

⑶ CPU：Intel® Celeron™ 500MHz相当以上

⑷ 必要メモリ容量：64MB以上　※Windows® XPの場合は、OSが動作可能なメモリ容量(256MB以上)が必要

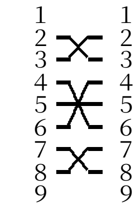
⑸ ハードディスク容量：50MB以上（セットアップ時）

⑹ 画面サイズ：800×600ピクセル以上

⑺ 必要なハードウェア：COMポート（RS-232C、Dサブ9ピンコネクタ）
※USB→RS-232C変換アダプタは、(株)アイ・オー・データ機器製「USB-RSAQ2」、エレコム(株)製「UC-SGT」のみ使用可能

⑻ 主装置との接続：両端Dサブ9ピンメスコネクタのインターリンク接続用クロスケーブル（5m以内）
（ケーブルの配線は右図のとおりです。異なる配線のケーブルは使用できません。）

クロスケーブルの配線



※以降の説明では、パソコンをＰＣと省略して記載する場合があります。

1－４　本プログラムの新規インストール

初めて本プログラムをインストールする手順は下記のとおりです。

①ダウンロードしたファイルを実行します。

②以降、画面の指示に従ってください。

●標準インストール先
パソコン短縮設定用プログラム（IZ2／S）の場合…「C:¥Program Files¥IZ_USR2_S」フォルダ
パソコン短縮設定用プログラム（IZ2／M）の場合…「C:¥Program Files¥IZ_USR2_M」フォルダ
パソコン短縮設定用プログラム（IZ2／L）の場合…「C:¥Program Files¥IZ_USR2_L」フォルダ

●プログラム名
パソコン短縮設定用プログラム（IZ2／S）の場合…「SPDPA-IZ2S.exe」
パソコン短縮設定用プログラム（IZ2／M）の場合…「SPDPA-IZ2M.exe」
パソコン短縮設定用プログラム（IZ2／L）の場合…「SPDPA-IZ2L.exe」

※本プログラムをインストールすると、デスクトップに本プログラムのショートカットが作成されます。

●本プログラムのバージョン確認方法
エクスプローラ等で、上記インストール先のフォルダにある本プログラムのファイルを右クリックし、プロパティでバージョン情報を確認してください。
※本プログラム起動後の『電話帳データ編集メニュー画面』でもバージョンが表示されます。

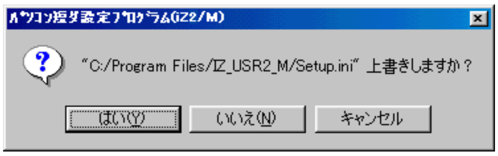
**★Windows® 2000、Windows® XPのパソコンへのインストールは、管理者の権限で行う必要があります。
他のユーザでログインしてインストールを行った場合、本プログラムが正常に動作しません。**

●Windows® 98SEはMicrosoft® Windows® 98 Second Edition operating systemの略です。
●Windows® MeはMicrosoft® Windows® Millennium Edition operating systemの略です。
●Windows® 2000はMicrosoft® Windows® 2000 operating systemの略です。
●Windows® XPはMicrosoft® Windows® XP operating systemの略です。

1－5　本プログラムのバージョンアップ

以前、本プログラムを使用していて、最新版にバージョンアップする手順は下記のとおりです。

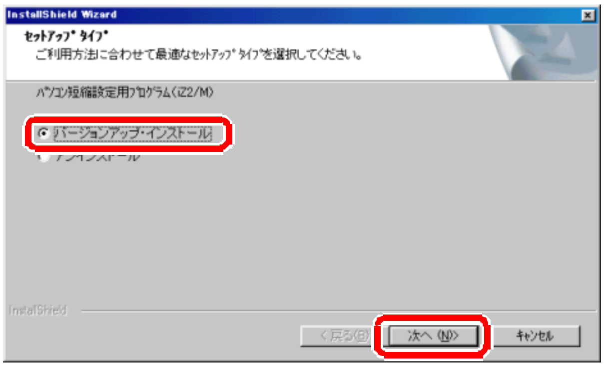
①ダウンロードしたファイルを実行します。
右記のような画面が何度か出る場合がありますので、［はい (Y)］をクリックしてください。



②しばらくすると『セットアップタイプ画面』となります。
「バージョンアップ・インストール」を選択し、［次へ (N)>］をクリックしてください。

③以降、画面の指示に従ってください。

※インストール先、プログラム名は古いバージョンと同じです。



1－6　本プログラムのアンインストール

本プログラムをパソコンから削除する場合は、下記の手順で行います。

■Windows® 98SE、Windows® Me の場合

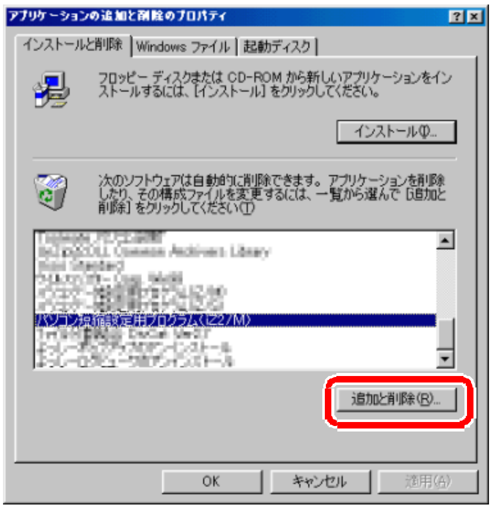
①［マイコンピュータ］⇒［コントロールパネル］⇒［アプリケーションの追加と削除］を選択します。

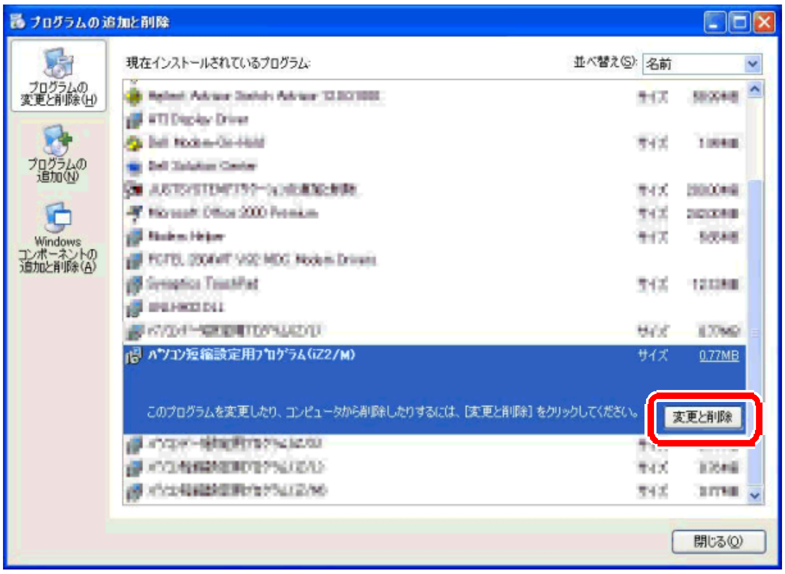
②削除したいプログラムを選択し、［追加と削除 (R)］をクリックします。
（下図はWindows® 98SEにて「パソコンデータ設定用プログラム (IZ2/M)」を選択した例）

■Windows® 2000、Windows® XP の場合

①［マイコンピュータ］⇒［コントロールパネル］⇒［プログラムの追加と削除］を選択します。

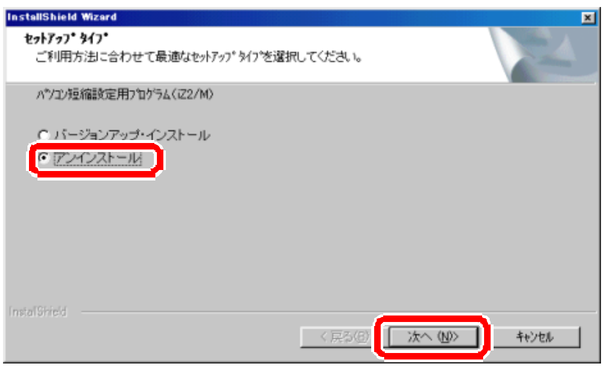
②削除したいプログラムを選択し、［変更と削除］をクリックします。
（下図は Windows® XPにて「パソコンデータ設定用プログラム (IZ2/M)」を選択した例）





③しばらくすると『セットアップタイプ画面』となります。
「アンインストール」を選択し、［次へ (N)>］をクリックしてください。

④以降、画面の指示に従ってください。



2. プログラムの起動

●事前確認（パソコンを主装置と接続して使用するとき）

①主装置とパソコンは接続されているか？（両端Dサブ9ピン、インターリンク接続用ケーブルを使用）

②主装置側のデータ設定コマンドはデータ設定用になっているか？（※9240、※9241）

★使用するＰＬＵのみを「データ設定用」にしてください。（※9240）

★パソコン短縮設定用プログラム（Ｖ2／Ｌ）の場合は、基本のＰＬＵのみ使用可能です。

1

本プログラムを起動すると『電話帳データ編集メニュー画面』が表示される。

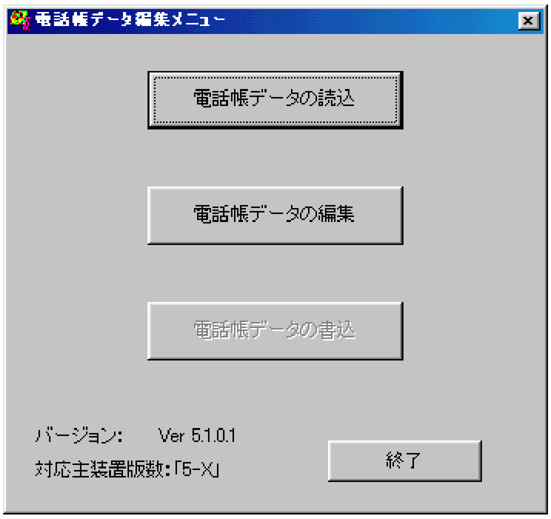
●各ボタンの説明

電話帳データの読込 …主装置を接続して、主装置内のシステム短縮データを読み込みます。（アップロード）

電話帳データの編集 …システム短縮データの作成／変更、ファイル読込、ファイル保存を行います。

電話帳データの書込 …パソコンで作成／変更したシステム短縮データを主装置に書き込みます。（ダウンロード）

★「電話帳データの読込」を実行しないと、使用できません。



※以降の説明は、パソコンを主装置に接続して主装置側の電話帳データの読み込みや、パソコンから主装置に電話帳データを書き込む場合を説明しています。
パソコンで事前に電話帳データの作成／編集のみを行う場合は、「3. 電話帳データの読込」は省略します。また、「3. 電話帳データの読込」を省略したときは「5. 電話帳データの書込」はできません。

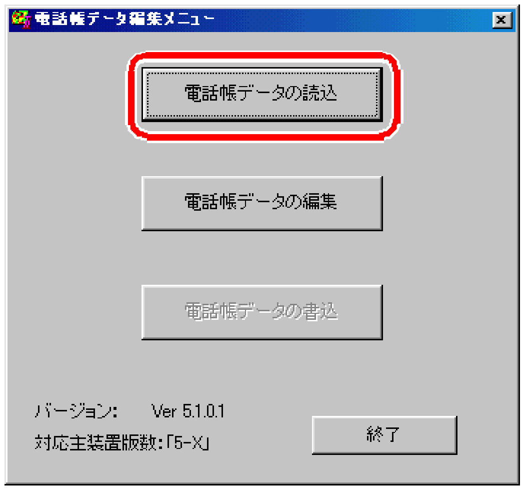
3. 電話帳データの読込

主装置から電話帳データ（システム短縮データ）を読み込みます。（アップロード）

1

本プログラムを起動したら、『電話帳データ編集メニュー画面』で ［電話帳データの読込］ をクリックする。

★主装置に短縮データが設定されていなくても、「電話帳データの読込」は必ず行ってください。
「電話帳データの読込」を行わなかった場合、「電話帳データの書込」を実行することができません。



2

『COMポート選択画面』となる。
パソコン側のCOMポートを選択して ［OK］ をクリックする。

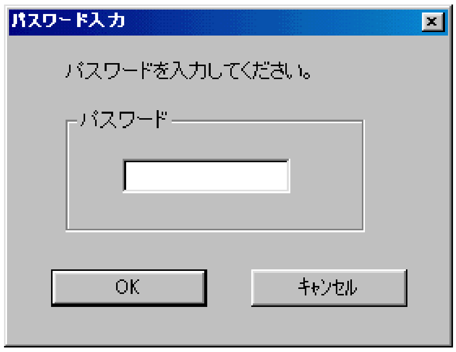
※COMポートは「COM1」～「COM8」まで選択できます。
※COMポートがオープンできない場合は『COMポートオープンエラー画面』が表示されます。
［OK］ をクリックすると『COMポート選択画面』に戻りますので、接続等を確認して操作をやり直してください。



3

『パスワード入力画面』となるので、主装置側のコマンド※000に設定されているパスワード4桁を入力し、［OK］ をクリックする。

※パスワードは半角数字を使用します。



4

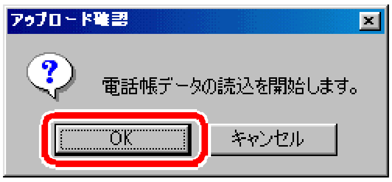
アップロードを開始してよい場合は、 OK をクリックする。

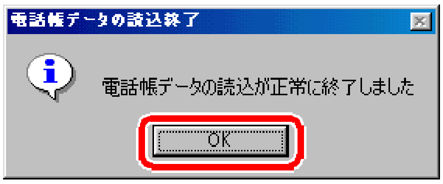
★中断できないので注意してください。

※ キャンセル をクリックすると、 電話帳データ編集メニュー画面』に戻ります。

※アップロードを開始すると、『データ通信実行中画面』が表示され、インジケータにアップロードの進行状況が表示されます。

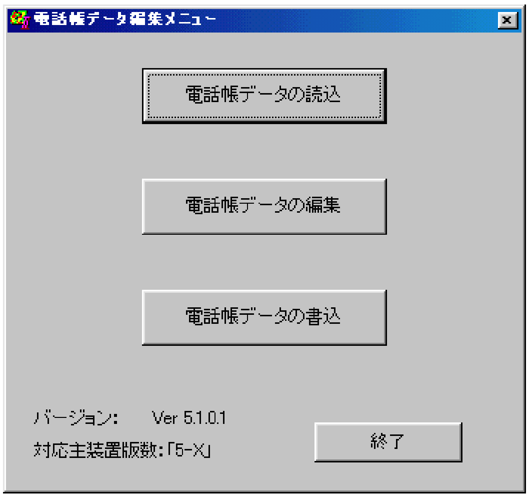
アップロードが完了すると 電話帳データの読込終了画面』が表示されるので、 OK をクリックする。





5

電話帳データ編集メニュー画面』に戻る。



ご注意

★アップロード中は、パソコン側で他のアプリケーションを使用しないでください。通信エラーとなることがあります。 特に、「デフラグ (ディスクの最適化)」は絶対に行わないでください。 デフラグ中にアップロードしたデータを主装置にダウンロードすると、システムが使用不可となります。)

★アップロード中に電話機を使用することもできますが、電話機の使用頻度が高くなると通信エラーとなることがあります。

※上記以外の場合でもエラーとなることがあります。

●エラーとなった場合は…

エラー画面（「ポートステータスチェックエラー発生」や 受信タイムアウトエラー発生」)の OK をクリックし、 電話帳データ編集メニュー画面』 (P5参照) まで戻ってからアップロードをやり直してください。

◆パソコンのスペック不足やメモリに多くのアプリケーションが常駐しているとエラーが発生しやすくなります。他のアプリケーションを終了したり、 画面のプロパティ] の 設定]タブでディスプレイの色を減らすことで回避できる場合があります。

◆上記の対策を行っても、受信タイムアウトエラー発生」、「CE_OVERRUNエラー発生」が多発するパソコンは、下記の設定を行ってください。

■Windows® 98SE、Windows® Me の場合

[マイコンピュータ]⇒ [コントロールパネル]⇒ [システム]⇒ [デバイス マネージャ]⇒使用する通信ポートを選択⇒ [プロパティ]⇒ [ポートの設定]⇒ 詳細設定]⇒受信バッファを 低」の位置に設定

■Windows® 2000、Windows® XP の場合

[マイコンピュータ]⇒ [コントロールパネル]⇒ [パフォーマンスとメンテナンス] (Windows® XPの カテゴリ表示」時のみ)⇒ [システム]⇒ [ハードウェア]⇒ [デバイス マネージャ]⇒使用する通信ポートを選択⇒ [プロパティ]⇒ [ポートの設定]⇒ 詳細設定]⇒受信バッファを 低」の位置に設定

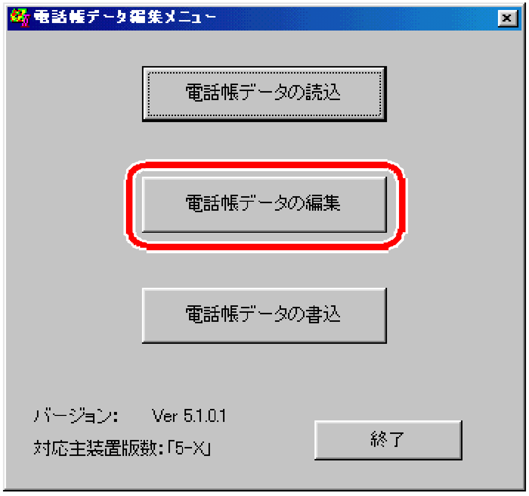
★アップロード中は電話機からの電子電話帳登録ができなくなります。

4. 電話帳データの編集

パソコンで電話帳データ（システム短縮データ）の作成／編集、ファイル読込、ファイル保存を行います。

1

「電話帳データ編集メニュー画面」で
電話帳データの編集 をクリックする。

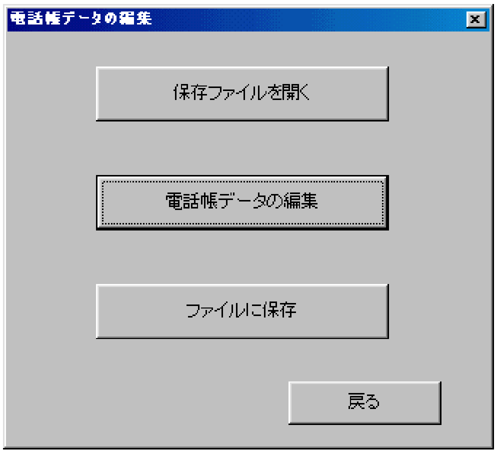


2

「電話帳データの編集画面」となる。

●各ボタンの説明

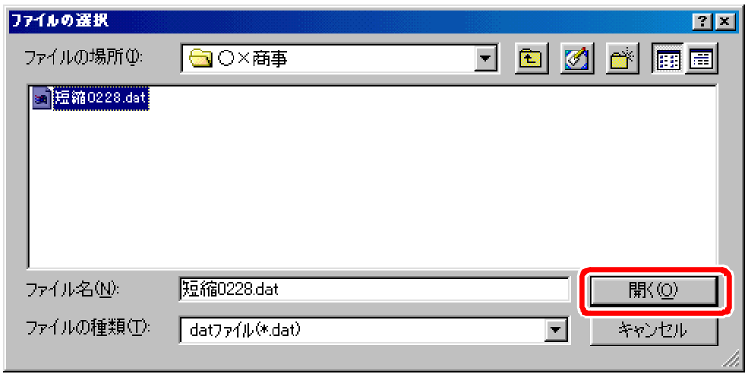
保存ファイルを開く … ファイルに保存されているシステム短縮データを読み込みます。
電話帳データの編集 … パソコンでシステム短縮データを設定／変更します。
ファイルに保存 … パソコンで作成／変更したシステム短縮データをファイル保存します。
戻る … 「電話帳データ編集メニュー画面」に戻ります。



(1) 保存ファイルを開く をクリックした場合

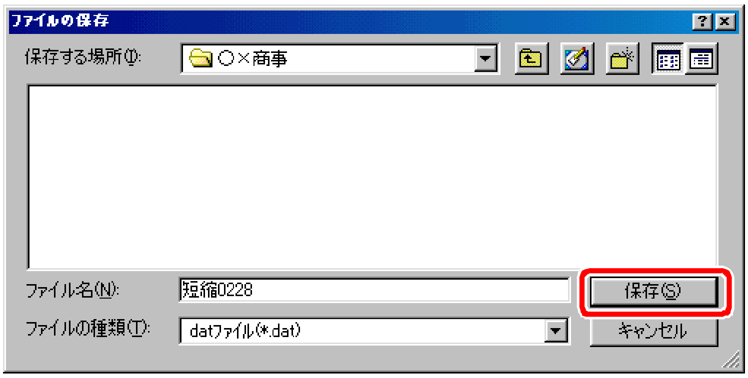
既に作成済のファイルを修正するときは、「電話帳データの編集」を行う前に「保存ファイルを開く」を行ってください。
読み込みたいファイルを選択して 開く(O) をクリックするか、読み込みたいファイルをダブルクリックします。

★短縮データのファイルを読み込むときは、先に 電話帳データの編集 をクリックし、「詳細システム短縮設定画面」で「システム短縮メモリ数」を読み込む短縮データに合わせてください。⇒ P8参照
メモリ数より読み込む短縮データが多い場合は、メモリ数を超えた短縮データは読み込めません。
★主装置から読み込んだ短縮データを変更する場合は、保存ファイルは開かないでください。



(2) ファイルに保存 をクリックした場合

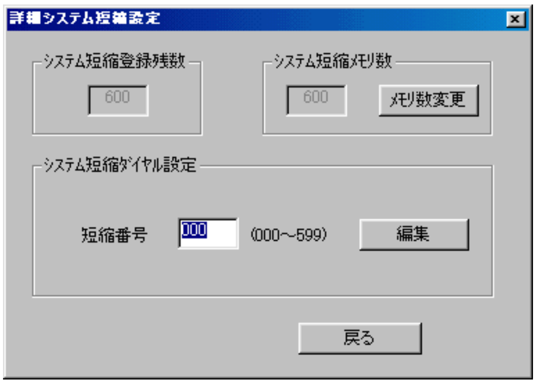
ファイル名を入力して 保存(S) をクリックします。
現在パソコン上にあるシステム短縮データがファイル保存されます。



※CSVファイルの読込やCSVファイルでの保存も可能です。「ファイルの種類(T)」で「csvﾌｧｲﾙ(*.csv)」を選択します。
また、P12も必ず参照してください。

3

操作2の『電話帳データの編集画面』で 電話帳データの編集 をクリックすると、『詳細システム短縮設定画面』となる。



●各ボタンの説明

メモリ数変更 … システム短縮のメモリ数を変更します。

編集 … 短縮データの設定/変更を行います。

戻る … 『メニュー選択画面』に戻ります。

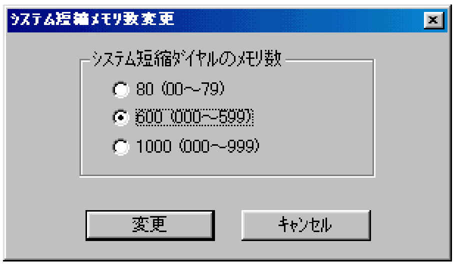
●各フィールドの説明

・**システム短縮登録残数**… 空きのシステム短縮数を表示します。

・**システム短縮メモリ数**… 現在のシステム短縮メモリ数を表示します。

・**短縮番号**… 空き短縮番号の最若番を表示します。短縮番号を入力することにより、入力した短縮番号からの設定もできます。

●システム短縮ダイヤルのメモリ数変更方法



① 『詳細システム短縮設定画面』の メモリ数変更 をクリックすると、『システム短縮メモリ数変更画面』が表示されます。

②変更したいメモリ数を選択し、変更 をクリックします。メモリ数が変更され、『詳細システム短縮設定画面』に戻ります。

※変更が不要な場合は、キャンセル をクリックすると、メモリ数を変更せずに『詳細システム短縮設定画面』に戻ります。

★『システム短縮メモリ数』を増やした場合は、電話機毎短縮ダイヤルのみ再登録が必要です。（本プログラムで電話機毎短縮ダイヤルの登録を行うことはできません。各電話機から登録を行ってください。）

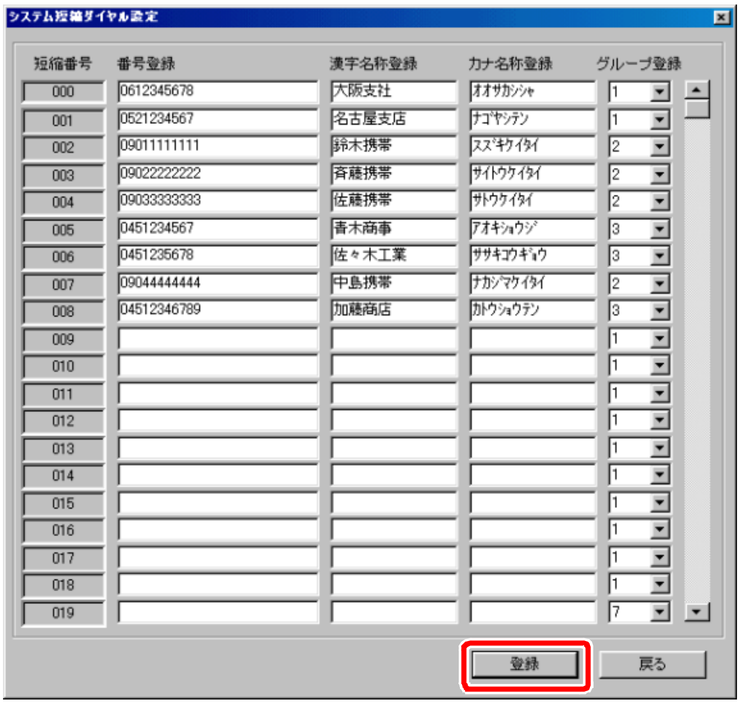
★『システム短縮メモリ数』を減らした場合は、全ての短縮ダイヤルの再登録が必要です。

★『システム短縮メモリ数』を変更した場合は、＊9112、＊9137の設定が消去されることがあります。

4

『詳細システム短縮設定画面』で 編集 をクリックすると、『システム短縮ダイヤル設定画面』となるので、電話番号や相手名称等を入力する。

入力が完了したら 登録 をクリックする。



●**番号登録**：電話番号を入力します。半角数字24文字まで

●**漢字名称登録**：相手名称を登録します。全角6文字（半角12文字）まで、英文字は大文字のみ

●**カナ名称登録**：電話帳検索で使用するカナ名称を登録します。半角12文字まで、英文字は大文字のみ

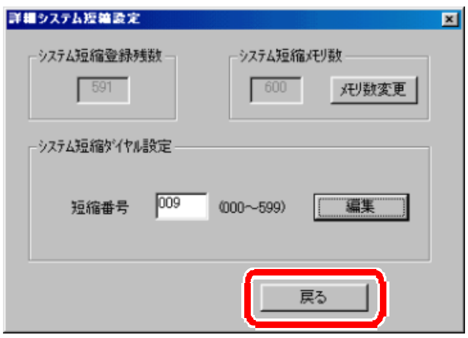
●**グループ登録**：短縮のグループ番号1～7を選択します。

※［Tab］キーで各入力項目の移動、[Page Up]/[Page Down]キーで20行単位の移動が可能です。また、スクロールマウスも使用可能です。

★ 戻る をクリックすると、入力した全てのデータを取り消して『詳細システム短縮設定画面』に戻ります。

5

『詳細システム短縮設定画面』で、戻る をクリックする。

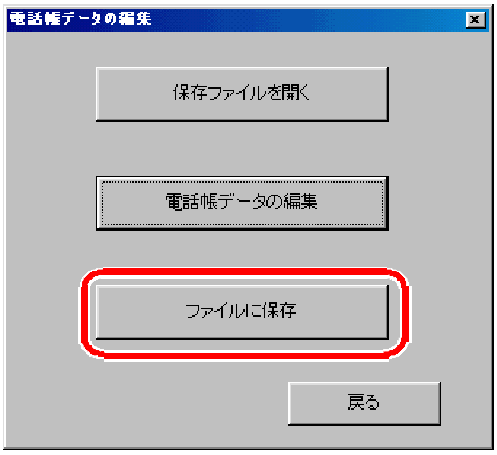


6

電話帳データの編集画面」となるので、[ファイルに保存] をクリックする。
※作成済のファイルを読み込んだ後、変更や追加を行っていない場合は、保存する必要はありません。

★短縮データの作成／変更を行ったら、電話帳データの書込」(主装置へのダウンロード)を行う前に、必ずファイルに保存してください。

★システム短縮データの保存に必要な容量は下記のとおりです。
・パソコン短縮設定用プログラム (Z2／S) :約 40kB
・パソコン短縮設定用プログラム (Z2／M) 約 60kB
・パソコン短縮設定用プログラム (Z2／L) :約 60kB
※ 「システム短縮のメモリ数」が最大 (600件または1000件)の場合に上記容量となります。



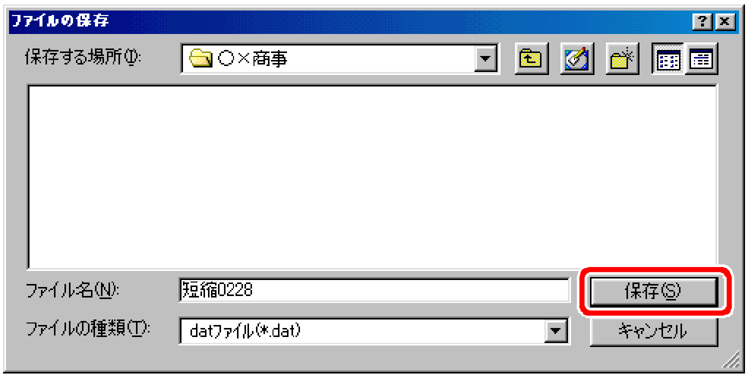
7

ファイル名を入力して [保存(S)] をクリックする。

現在パソコン上にあるシステム短縮データ内容がファイル保存されます。

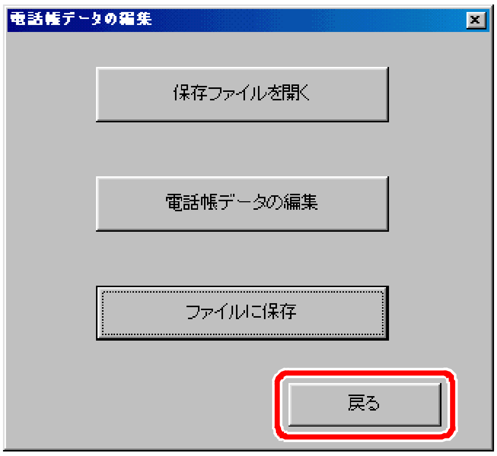
※必要に応じて、ファイルを保存するフォルダを作成してください。

※CSVファイルでの保存も可能です。「ファイルの種類(T)」で「csvﾌｧｲﾙ(*.csv)」を選択します。 また、P12も必ず参照してください。



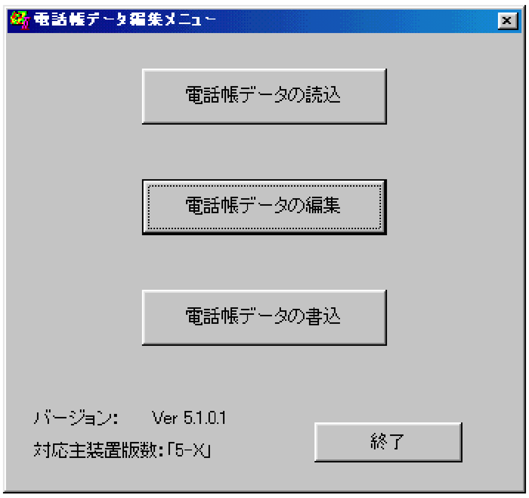
8

電話帳データの編集画面」に戻るので、[戻る] をクリックする。



9

電話帳データ編集メニュー画面」に戻る。



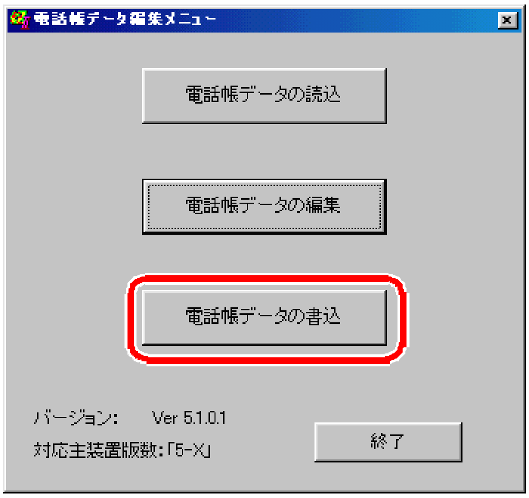
5. 電話帳データの書込

パソコンで作成／編集した電話帳データ（システム短縮データ）を主装置に書き込みます。

1

『電話帳データ編集メニュー画面』で
[電話帳データの書込] をクリックする。

★ファイル保存を行ってから「電話帳データの書込」を実行してください。
ファイル保存していない場合は、P9の操作6～操作7を参照してファイル保存してください。



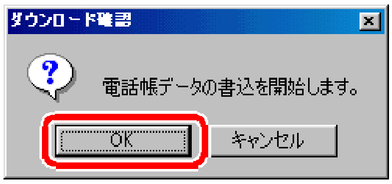
2

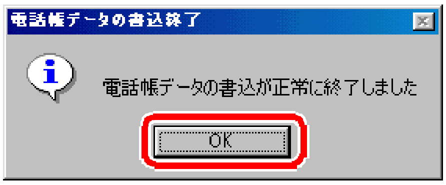
ダウンロードを開始してよい場合は、[OK] をクリックする。
★中断できないので注意してください。

※[キャンセル] をクリックすると、『電話帳データ編集メニュー画面』に戻ります。

※ダウンロードを開始すると、『データ通信実行中画面』が表示され、インジケータにダウンロードの進行状況が表示されます。

ダウンロードが完了すると『電話帳データの書込終了画面』が表示されるので、[OK] をクリックする。





ご注意

★ダウンロード中は、パソコン側で他のアプリケーションを使用しないでください。通信エラーとなることがあります。（特に、「デフラグ（ディスクの最適化）」は絶対に行わないでください。デフラグ中にダウンロードすると、システムが使用不可となります。）

★ダウンロード中に電話機を使用することもできますが、電話機の使用頻度が高くなると通信エラーとなることがあります。

※上記以外の場合でもエラーとなることがあります。

●エラーとなった場合は…
エラー画面（「ポートステータスチェックエラー発生」や「受信タイムアウトエラー発生」）の [OK] をクリックし、『電話帳データ編集メニュー画面』（P5参照）まで戻ってからダウンロードをやり直してください。<u>必ず、ダウンロードを最後まで完了させてください。途中で中止した場合、主装置側のデータが不完全のままとなり、正常に動作しなくなります。</u>

◆パソコンのスペック不足やメモリに多くのアプリケーションが常駐しているとエラーが発生しやすくなります。他のアプリケーションを終了したり、［画面のプロパティ］の［設定］タブでディスプレイの色を減らすことで回避できる場合があります。

◆上記の対策を行っても、「受信タイムアウトエラー発生」、「CE_OVERRUNエラー発生」が多発するパソコンは、下記の設定を行ってください。

■Windows® 98SE、Windows® Me の場合

［マイコンピュータ］⇒［コントロールパネル］⇒［システム］⇒［デバイス マネージャ］⇒使用する通信ポートを選択⇒［プロパティ］⇒［ポートの設定］⇒［詳細設定］⇒受信バッファを「低」の位置に設定

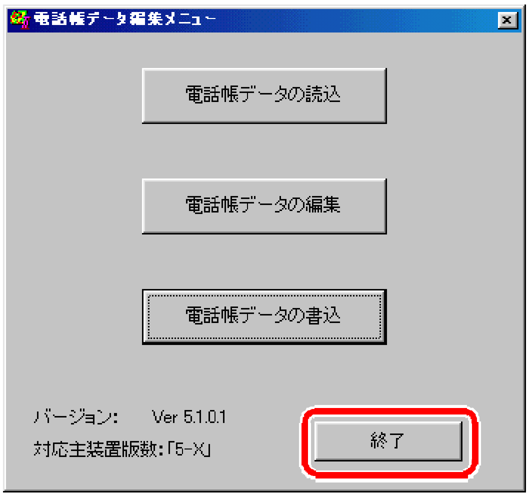
■Windows® 2000、Windows® XP の場合

［マイコンピュータ］⇒［コントロールパネル］⇒［パフォーマンスとメンテナンス］（Windows® XPの「カテゴリ表示」時のみ）⇒［システム］⇒［ハードウェア］⇒［デバイス マネージャ］⇒使用する通信ポートを選択⇒［プロパティ］⇒［ポートの設定］⇒［詳細設定］⇒受信バッファを「低」の位置に設定

★ダウンロード中は電話機からの電子電話帳登録ができなくなります。

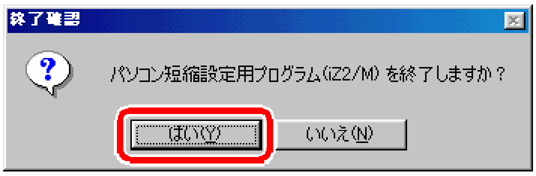
6. プログラムの終了

1 **『電話帳データ編集メニュー画面』で、[終了] をクリックする。**



2 **『終了確認画面』で [はい(Y)] をクリックする。**

※[いいえ(N)] をクリックすると『電話帳データ編集メニュー画面』に戻ります。



7. CSVファイルを利用するには…

⑴ ファイルの作成方法

EXCEL等で作成した電話番号一覧を利用することができます。

※EXCEL等の使用方法は各アプリケーションの説明書等を参照してください。

下記手順で電話番号一覧を作成／編集してください。

①下記に示すフォーマットで電話番号一覧を作成／編集する。
（全てのセルの書式を「文字列」に設定してから作成／編集してください。）

必ず000から入力 →

	A	B	C	D	E	F
1	短縮番号	電話番号	カナ名称	漢字名称	グループ番号	
2	000	0312345678	ﾄｳｷｮｳﾎﾝｼｬ	東京本社	1	
3	001	0612345678	ｵｵｻｶｼｼｬ	大阪支社	1	
4	002	0521234567	ﾅｺﾞﾔｼﾃﾝ	名古屋支店	1	
5	003	09011111111	ｽｽﾞｷｹｲﾀｲ	鈴木携帯	2	
6	004	09022222222	ｻｲﾄｳｹｲﾀｲ	斉藤携帯	2	
7	005	09033333333	ｻﾄｳｹｲﾀｲ	佐藤携帯	2	
8	006	0451234567	ｱｵｷｼｮｳｼﾞ	青木商事	3	
9	007	0451235678	ｻｻｷｺｳｷﾞｮｳ	佐々木工業	3	
10	008	09044444444	ﾅｶｼﾞﾏｹｲﾀｲ	中島携帯	2	
11	009	04512346789	ｶﾄｳｼｮｳﾃﾝ	加藤商店	3	

- **1行目：** 短縮番号、電話番号、カナ名称、漢字名称、グループ番号の文字を上記の順番通りに入力します。
- **短縮番号：** 000からの連番を半角数字で入力します。
  データを入力した行は、必ず入力してください。（全ての短縮番号を入力する必要はありません。先頭の000は必須）
  ※８0メモリの場合は、2桁入力(00～79)、3桁入力（000～079）の何れも可能です。
- **電話番号：** 電話番号を入力します。半角数字24文字まで。
- **カナ名称：** 電話帳検索で使用するカナ名称を**スペースを入れずに**入力します。半角12文字まで、英文字は大文字のみ。
- **漢字名称：** 相手名称を**スペースを入れずに**入力します。全角 6文字（半角12文字）まで、英文字は大文字のみ。
- **グループ番号：** 短縮のグループ番号 1～ 7を半角数字で入力します。

★入力文字にカンマ「，」は使用しないでください。また、指定されているセルは必ず入力し、上記以外のセルにはデータを入力しないでください（住所データ等）。

★指定以外のフォーマットで作成した場合や、上記の入力条件に従わずに作成したファイルは利用できません。既に作成済の電話番号一覧がある場合は、指定のフォーマットに編集し直してください。

②作成／編集が済んだら、CSV形式で保存する。

※CSV形式の他、EXCEL等の通常の型式でもファイル保存することをお勧めします。
CSV形式のファイルをEXCELで読み込んだ場合、電話番号欄の先頭の「0」が削除されますので、後日編集作業を行う場合は通常の型式で保存したファイルを利用した方が便利です。

⑵ 本プログラムで保存したCSVファイルの読込方法

EXCELでCSVファイルを直接読み込むと、電話番号欄の先頭の「0」が削除されますので、下記操作を行ってください。（一旦、txtファイルに変更します。）

①エクスプローラ等で、読み込みたいCSVファイルの拡張子を「txt」に変更する。

②EXCELで拡張子を「txt」に変更したファイルを開く。

③画面の指示に従って、操作する。

- **元のデータの形式：「カンマやタブなどの区切り文字によってフィールドごとに区切られたデータ」**を選択します。
- **区切り文字：「カンマ」**を選択します。
- **列のデータ形式：**全てのデータ項目を「**文字列**」にします。

④ [完了（F）] をクリックし、ファイルが開けたら上記（1）に従って編集作業を行う。

8. 旧 iZシリーズ主装置の短縮データを利用するとき

旧 iZシリーズ主装置の短縮データを利用するときは、下記手順で行います。

①旧 iZシリーズの「電話帳データの読込」を行う。
　※旧 iZシリーズ用の『パソコン短縮設定用プログラム（iZ/「」）』を使用します。

②主装置から読み込んだ短縮データのファイル保存を行う。
　※旧 iZシリーズ用の『パソコン短縮設定用プログラム（iZ/「」）』を使用します。

③新しい主装置に対して、「電話帳データの読込」を行う。
　※ iZ2シリーズ用の『パソコン短縮設定用プログラム（iZ2/「」）』を使用します。

④手順②で保存したファイルを開く。
　※ iZ2シリーズ用の『パソコン短縮設定用プログラム（iZ2/「」）』を使用します。

⑤新しい主装置に対して、「電話帳データの書込」を行う。
　※ iZ2シリーズ用の『パソコン短縮設定用プログラム（iZ2/「」）』を使用します。

★既に短縮データが設定してある主装置に対して「電話帳データの書込」を行うと、主装置側の短縮データは手順④で開いたファイルの短縮データに置き換わります。